

平成26年度 学校自己評価システムシート (さいたま市立浦和高等学校)

目指す学校像	中高一貫教育校として、浦和中学校と連携を密にし、生徒の個性と能力を重視した特色ある教育活動を展開する。
重点目標	1 中高一貫教育校としての更なる充実 2 高い次元におけるバランスのとれた教育の充実 3 国際理解教育と開かれた学校づくりの推進

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価					学 校 関 係 者 評 価			
年 度 目 標					年 度 評 価 (2月1日現在)			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	実施日 平成27年2月17日
								学校関係者からの意見・要望・評価等
1	<ul style="list-style-type: none"> 中高一貫教育校として、中高合同学校行事、進路実績等で高い成果をあげている。更なる本校の特色化の推進、具現化が求められる。 	<ul style="list-style-type: none"> 中高一貫教育の充実を進める。 中学校からの内部進学生と高校からの入学生がお互いに高め合い切磋琢磨する環境づくりを進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ①分掌、委員会等の中高連携を強化し、中高合同の会議や研修会、学校行事を更に充実させる。 ②シバ24を踏まえ6年間を見通した学習計画・授業内容の充実を図る。 ③内部進学生と高校入学生の意見を効果的に収集する学校自己評価アンケートを作成し、実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①中高一貫教育の特色の具現化の状況。 ②高校へのつなぎ学習の状況、中高合同教科会の回数。 ③中高一貫教育の現状と課題を計るアンケートの作成と実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ①中高合同の会議で相互に情報・意見交換を行い、中高合同行事を滞りなく実施した。合同研修会では中高接続授業の成果についての検証をした。 ②つなぎ学習は7教科、33単位分(担当15名)を行った。合同教科会は6教科が毎回又は必要に応じて行い、6年間を見通した学習計画・授業内容の充実を図った。 ③中高一貫教育の現状と課題を把握するアンケートを作成できなかった。次年度の課題。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ①中高一貫教育校として学校全体の教育力向上を進めるために議論を活発化する。 ②中学校からの内部進学生と高校からの入学生がお互いに高め合い切磋琢磨する環境づくりを進める。 ③内部進学生と高校入学生の意見を収集するためにアンケートなどの実施を検討する。 	<p>中高合同の行事等を充実させるとともに、進路実績等で高い成果をあげている。中学校からの内部進学生と高校からの入学生がお互いに高め合い切磋琢磨する環境づくりをさらに進めてほしい。</p> <p>再来年度、10年目の節目を迎えるにあたり、中高一貫教育のカリキュラムについての検証を求めたい。また、生徒の実情やニーズ、大学入試改革など、社会の変化に対応する新たなカリキュラム検討の必要性を強く感じる。</p>
2	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の高いニーズに応えることのできる授業、高い目標に挑戦する生徒を生み出し伸ばす、計画的かつ組織的な進路指導が求められる。 社会のリーダーに必要な規範意識、粘り強い精神、コミュニケーション能力を育てる指導が求められる。 	<ul style="list-style-type: none"> 進路指導を充実し、授業の質を更に高め、進路実績につなげる。 規律ある学校生活を確立するとともに、他者を尊重する態度を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ①個別面談や進路ガイドの充実、自習室の整備、課業日及び長期休業中の進学補習の拡充を図る。 ②生徒による授業評価、教員相互の授業見学等を実施し、授業力の向上を図る。 ③部活動を奨励して文武を高める取組を一層充実させる。 ④登下校の交通マナー指導や身だしなみ指導(スカート丈等)の徹底を図り、規範意識を育てる。 ⑤いじめ防止基本方針に基づいた年間計画を忠実に実行する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①大学入試センターの受験率・得点状況。国立大学や難関大学合格者数。 ②生徒による授業評価、公開授業参加者数。 ③部活動の参加率や大会の成績。 ④交通マナーの遵守及び整容の状況。 ⑤いじめ防止基本方針に基づく年間計画の達成状況。 	<ul style="list-style-type: none"> ①センター試験受験者は306名(97.5%)であり、得点平均も県公立高校の上位であった。 ②1,2学期に授業評価アンケートを行って、全ての教員に結果をフィードバックした。校内公開授業の期間を次年度は2週間とした。 ③運動部加入率67.5%、文化部加入率34.1%。陸上部、放送部、インター外部、音楽部が全国大会出場、吹奏楽部が西関東大会出場、サッカー部が県準優勝。 ④登下校の交通マナーについて地域住民から何件か苦情が寄せられた。次年度も継続課題。 ⑤いじめ防止対策委員会5回、生徒いじめ対策委員会2回開催、いじめアンケートは年3回実施。早期発見し対応する体制を確立。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ①②生徒、保護者の高いニーズに応えることのできるように授業の質を更に高める。進路実績につなげる。 ③部活動を奨励して文武ともに高める取組を一層充実させる。 ④引き続き登下校の交通マナー指導や身だしなみ指導(スカート丈等)の徹底を図り規範意識を育てる。また、今年度未実施のスケアードストレイト教室を実施する。 ⑤いじめ防止基本方針に基づいて、引き続きいじめのない学校づくりを進める。 	<p>授業が基本である。生徒、保護者の高いニーズに応えるために各教員が授業の質と指導の技量を高め、生徒の学力を向上させて進路実績につなげることを強く希望する。</p> <p>女子生徒の服装がしっかりとしてきたことから、日々、徹底した生徒指導が行なわれていることがわかる。今後も生徒の健全な成長を促す粘り強い丁寧な指導を行うとともに、規範意識を育てる指導の推進を強く希望する。</p> <p>自転車の事故が心配である。運転する生徒の意識を高めるためにスケアードストレイト教室は有意義である。引き続き登下校の交通マナー指導も徹底を図ってほしい。</p>
3	<ul style="list-style-type: none"> 高い英語力とグローバルに展開できる外交力(交渉力)・発信力をもって、主体的に行動できる人材を育成する。 ホームページの充実をはじめ、土曜公開授業、学校説明会等様々な機会を活用し、本校の具体的な取組の情報提供を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 国際理解教育を推進する。 開かれた学校づくりを推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①海外研修派遣事業や留学生受け入れ事業、海外修学旅行を推進する。 ②発表、討論等の言語活動を高度化した英語教育や英語ディベート等の取組を推進する。 ③ホームページを更に充実させ、生徒・保護者地域に本校の取組を随時発信する。 ④学校説明会及び一般対象の土曜公開授業の実施回数を増やし、入学希望者に対して、本校の魅力をアピールする。 	<ul style="list-style-type: none"> ①国際交流等の実施回数とその内容。 ②資格・検定試験の合格状況、国内外の大会における入賞者数。 ③ホームページの更新回数及び閲覧回数。 ④学校説明会の実施回数及び参加者数の増加。土曜授業の参加者数。 	<ul style="list-style-type: none"> ①インター外部生徒と顧問教諭が「埼玉グローバル賞」を受賞。海外修学旅行(シンガポール・マレーシア)、短期派遣事業(クローバー・ヒル高校、部活動)により国際理解を深めた。留学生3名派遣、1名受入。 ②英語スピーチコンテスト及び英作文コンテストで県優勝者を出した。英語検定準1級合格者5名。 ③ホームページ(2/1現在)アクセス数39.2万件、市高トピックス更新216回。 ④学校説明会を夏休みに実施し1,325組、また2学期に初開催して1,092組が参加した。土曜公開授業を15回実施し中学生・保護者981名が来校。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ①海外修学旅行、クローバー・ヒル高校との相互交流、海外研修派遣事業を推進する。 ②発表、討論等の言語活動を高度化した英語教育や英語ディベート等のアクティブラーニングを推進する。 ③学校と生徒・保護者の双方向で連絡を取りあうことができる安全で確実なメール配信システムを構築する。 ④多くの教員がさいたま市内、市外の中学校を訪問する体制を作り、中学校及び入学希望者に対して本校の魅力をアピールする。 	<p>国際交流や海外研修による国際理解教育の推進を高く評価する。ただし、グローバル社会において活躍するには、自己を表現し、他者とディベートする能力が大切である。それには適切な日本語で自己を表現しディベートできる力も備える必要がある。基盤となる教養を身に付けさせるなど、総合的な能力を育成する教育の推進に期待したい。</p> <p>学校ホームページの積極的な更新は、教育活動を詳しく知ることができ、とても意義がある。今後も地域に開かれた学校づくりの推進を強く希望する。</p>